

【緑地を楽しむ本】

『てぶくろ』 ウクライナ民話

エウゲーニー・M・ラチョフ絵 / 内田莉莎子訳

福音館書店



手袋を、落としてしまいました。バッグの中に入れておいたのに、財布を出す時に一緒に出してしまい、床に落ちたのに気づかなかったのでしょうか。今年は例年になく厳しい寒さだというのに・・・

『てぶくろ』に出てくるおじいさんも、雪の森を歩きながら手袋

を落としてしまいました。ふかふか暖かそうな手袋。すぐにネズミがやってきて手袋に入ります。次はかえる、次はうさぎ。やってくる動物たちは律儀にききまず、「ここに住んでいるのは誰？」と。そして「私も入れて」。次々と来る動物も大型になり、もう手袋はぎゅうぎゅう詰め。

きっと、森の動物たちも寒かったのでしょう。こんな時は一人ではいたくない、ぎゅう詰めでけんかしても、押しくらまんじゅうでも、他の生きものと一緒にいたいのではないかしら。

おじいさんが手袋を落としたことに気づき、戻ってくるまでのほんの短い時間、動物たちの楽しい世界が広がります。手袋、私も翌日見つけました。よかった！

(小川)